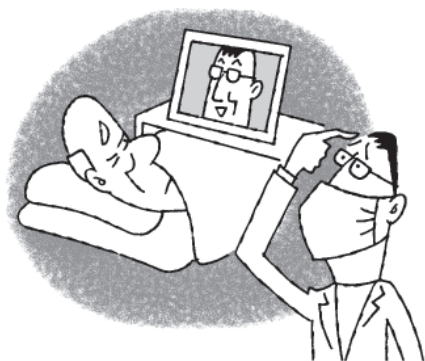


今回の新型コロナウイルス感染症に対して緊急事態宣言が発令されてから自宅で自粛している（令和2年5月中旬現在）。今回のウイルスは、実態が分からないうちはインフルエンザよりも病原性は弱く、大きな心配はいらぬとのマスコミ報道が大半であったが、中国の現状写真を見た時、生半可な感染症ではないと思われた。その当時は、まだ多くの中国人観光客が我が国を訪れていたため心配していた。今年1月末ごろより徐々に国内にも感染が広がってき

た。情報は新聞とテレビが中心で、中にはかなり偏った報道もあった。その後しだいに感染力と病原性が分かり、また有名人が亡くなられ、大変な事態であるとようやく皆が認識するようになった。4月になり緊急事態宣言が発令され、長期間の外出自粛になった。

学校は早々に休みになり長期の自宅待機になった。予期せぬ教育の遅れが子ども達に大きな影響を残さなければと思うが、特に進学を控えている学年は時間の使い方の



医界サロン

緊急事態宣言下に 思うこと

広報委員 福田 吉彦

上手下手により学力の差が広がり、希望に結びつかないかもしれない。大阪市はすべての小中学校にパソコンを配るようにしたとのことだが、これは一概に良いとは言えないと思う。インターネットを介した授業も今の時期は必要かもしれないが、やはり鉛筆で紙に字を書くことが大事な時期にキーボードを打ってゲーム感覚での学習には疑問がある。以前、司馬遼太郎さんの肉筆原稿を見たことがあるが、何種類もの色鉛筆を用いて推敲されていた。それを見ると考察の過程が一目で分かり、また保存できる。パソコン画面では簡単に文章を消去でき順番も変えることができるが、思考の跡が分かりにくい。日本人にとって大切な漢字も覚え難いし、書けなくなってしまうかもしれない。数学も紙に書いてじっくり考えないと学力が向上しにくいと思う。パソコンによる授業は必要最小限にし、利用法の教えが重要である。

手術と分娩時以外はマスクを使用しなかったが、今は自宅内以外では常に使用するようになっている。先日、患者さんへの講義時20分ほど続けてマスクをしたまま説明をしていたら、呼吸困難になってしまった。中国ではマスクをして体操した子どもが複数名亡くなったとのことであり、マスクの危険性も認識しないといけない。

今回遠隔診療が突如積極的に導入され、またその診療報酬が朝令暮改のごとく日々変わった。緊急時だけの特別措置とのことだが多くの医師がその危険性を指摘しており、その導入はまたもや医療費削減を狙ったものだと勘繰らざるを得ない。

早くこの緊急事態が終焉し、感染の第2波、第3波が来ないことと日々の診療が従来どおりに戻ることを祈ります。